

平成30年度



ふくおかしの 家計簿

目次

予算とは？何に使っているの？

- 予算って何？平成30年度の予算は？……………01
- 収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？……………01~02
- 市民一人あたりにすると？……………03
- 予算を「家計」に例えると？……………04
- どのような事業に使うの？……………05~10

福岡市の財政状況はどんなの？

- 借金はいくらあるの？他の政令指定都市と比べるとどうなの？…11
- なぜ借金が増えたの？借金は何に使っているの？……………12
- 収入や支出はどうなってるの？……………13~14
- 福岡市の財政状況のまとめ……………14

福岡市の財政をどうやりくりしていくの？

- 財政の現状と見通しは？……………15
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた取組みの方向性は？……………16
- 将来にわたり持続可能な財政運営に向けた平成30年度における取組みは？…17~18

福岡市の
平成30年度予算
財政状況
将来にわたり持続可能な財政
運営に向けた取組み
を紹介します！

1 予算とは？ 何に使っているの？

〔この冊子で使われている数値は、各項目で四捨五入していることがあるため、合計などが一致しない場合があります。〕

●予算って何？

福岡市に1年間に入ってくる収入を見積もり、その使い道を決めるのが予算です。つまり、みなさんが納めた税金などが、どのような事業にどれくらい使われるのかを示したものです。

●どのような予算があるの？

予算は、どの収入がどこに使われているのか、収入と支出の関係をはっきりさせるために3つの会計（一般会計、特別会計、企業会計）に区分しています。

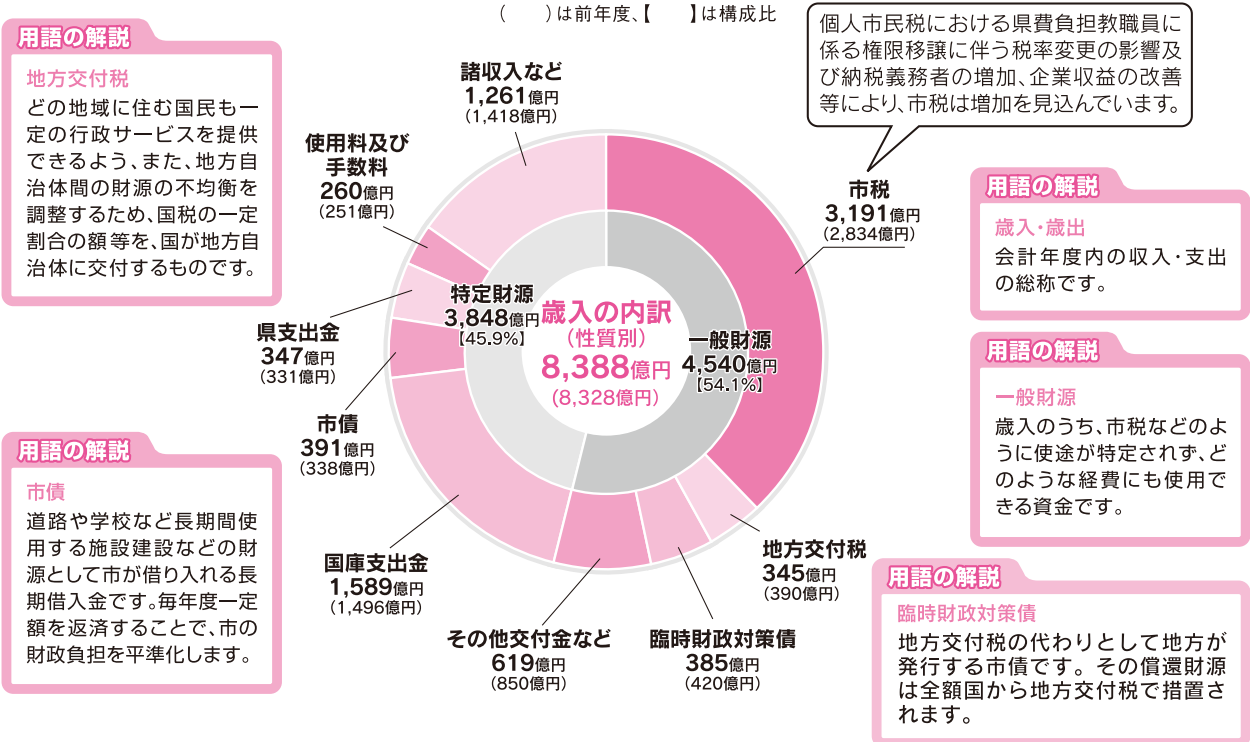
●平成30年度の予算は？（ ）は前年度

用語の解説 一般会計 福祉、教育などの行政の基本的な事業を行う会計(予算の中心)です。	◎ 全会計 1兆8,765億円 (1兆8,955億円)	前年度比 1.0%減	一般会計の予算は、過去最大の規模となっており、政令指定都市(20都市中)では、大阪市、横浜市、名古屋市、札幌市について5番目の規模です。
	◎ 一般会計 8,388億円 (8,328億円)	前年度比 0.7%増	
	◎ 特別会計 7,348億円 (7,552億円)	前年度比 2.7%減	特別会計は、使用料など特定の収入で、特定の事業を行う場合などに設ける会計です。福岡市には現在15会計(国民健康保険事業、介護保険事業など)があります。
	◎ 企業会計 3,030億円 (3,074億円)	前年度比 1.5%減	企業会計は、民間企業と同じように事業収益で賄われている会計です。福岡市には、現在5会計(モーターポート、下水道、水道、工業用水、地下鉄)あります。

●収入(歳入)と支出(歳出)の内訳は？

①一般会計の収入(歳入)

収入には、市税のほか国や県から交付されるお金や借入金などがあります。

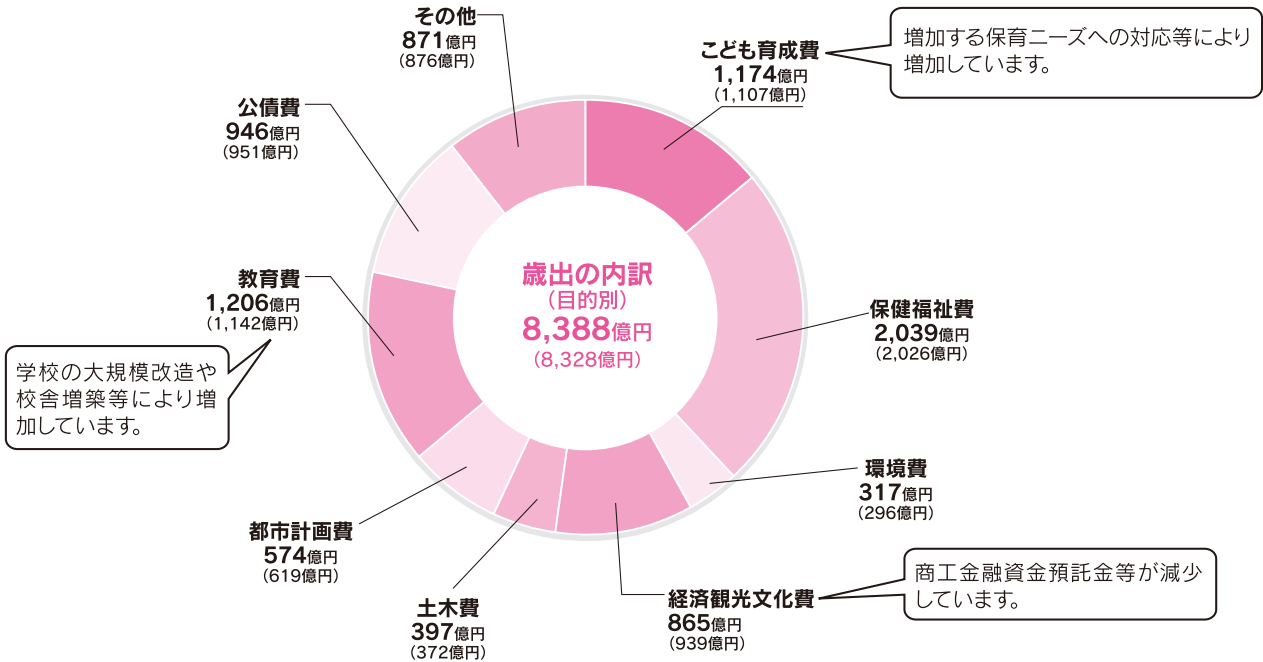


②一般会計の支出(歳出)

【目的別】

予算では、子育て、福祉など目的ごとにどれだけ使うのか定めています。

()は前年度



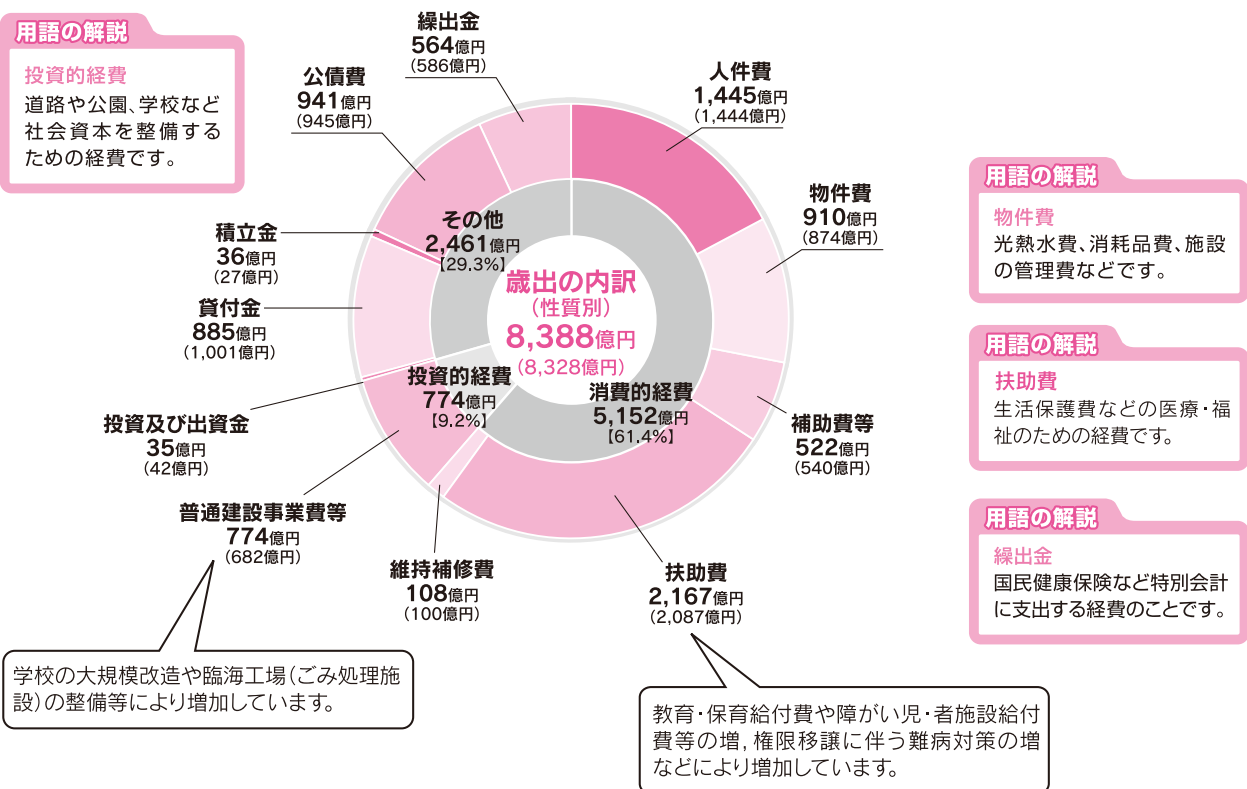
【性質別】

予算は、目的別だけではなく、人件費や物件費など性質による分類からもどれだけ使うのか見ることができます。()は前年度、【 】は構成比

用語の解説

投資的経費

道路や公園、学校など社会資本を整備するための経費です。



用語の解説

物件費

光熱水費、消耗品費、施設の管理費などです。

用語の解説

扶助費

生活保護費などの医療・福祉のための経費です。













用語の解説

繰出金

国民健康保険など特別会計に支出する経費のことです。

●市民一人あたりにすると？

一般会計の予算を市民一人あたりに換算すると約55万円となり、市民生活の向上や地域経済の活性化などいろいろな施策に取り組んでいます。

	平成30年度予算		
	億円	市民一人あたりの予算	
 保健・医療・福祉に 2,048 133,964 (24.4%)			高齢者も障がい者も誰もが住みやすいまちづくりを進めます。
 学校や教育に 1,274 83,297 (15.2%)			
 こどもの育成に 1,177 76,965 (14.0%)			新たな保育ニーズへの対応など、健やかな子ども育成に積極的に取り組みます。
 地域経済の発展に 991 64,816 (11.8%)			
 道路・住宅・計画的なまちづくりに 838 54,796 (10.0%)			
 行政の運営に 605 39,597 (7.2%)			
 災害に強いまちに 416 27,194 (5.0%)			
 清潔なまちに 329 21,477 (3.9%)			
 地下鉄・水道事業の支援に 243 15,874 (2.9%)			地域コミュニティの活性化など、支えあいとつながりのあるまちづくりに取り組みます。
 地域活動・文化・スポーツに 219 14,308 (2.6%)			
 公園整備や緑の保全に 158 10,365 (1.9%)			
 新鮮で安全な食料の提供に 90 5,906 (1.1%)			市民一人あたりの予算55万円は、20政令指定都市中、4番目の多さです。
合計 8,388 548,559 (100.0%)			

※平成29年12月末現在の人口(152万9,040人)で割っています。

※()内は、構成比を示しています。

●予算を「家計」に例えると？

一般会計の予算(8,388億円)を年間の収支が500万円(1月あたり41万6,000円)の家計に置き換えて説明します。

給与のうち、基本給の多くが市民の皆さんが納めた市税です。
諸手当のうち、地方交付税は、どの市町村も標準的なサービスを受けられるよう地域間格差を解消するため、国から交付されるものです。
また、国・県支出金は、生活保護や道路整備など市の事業の一部を国や県が一定割合を負担するものです。

ふくおか家・1カ月の家計簿

《収入》

給与	33万3,000円
（うち基本給 （市税などの自主財源） 諸手当）	19万5,000円 13万8,000円
銀行からの借入 （市債）	3万8,000円
貸したお金の返済金 （貸付金元利収入）	4万5,000円
計	41万6,000円

《支出》

医療費・保育料など （扶助費）	10万7,000円	} 義務的経費
ローンの返済 （公債費）	4万7,000円	
食費 （人件費）	7万2,000円	
光熱費や通信費など （物件費）	4万7,000円	
家・車・電化製品の修理・買い換え （維持補修費、普通建設事業費等）	4万4,000円	
家族への仕送り （繰出金、補助費）	5万4,000円	
友人などへ貸すお金 （貸付金等）	4万5,000円	
計	41万6,000円	

ローンを4万7,000円返済する一方、新たな借入は3万8,000円に抑えました。借金残高を減らす努力をしています。

医療費・保育料など（扶助費）、ローンの返済（公債費）、食費（人件費）、の3つは、「義務的経費」と呼ばれています。

これが多いのは、一般家庭のエンゲル係数（家庭における食費の占める割合）が高いことと同じで、家計にあまり余裕がないことを意味します。ちなみに、福岡市の歳出総額に占める義務的経費の割合は、54.2%となっており、政令市平均の58.0%と比べると、やや低い状態です。

●どのような事業に使うの？

「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環の実感をあらゆる人に、そして、都心部から農山漁村地域まで行き渡らせ、安全・安心で持続的な好循環が可能な都市づくりを推進していくため、以下の事業等を実施します。

市民一人ひとりに、「温もり」のあるまち

安心して産み育てられる環境づくり

新たな保育ニーズへの対応

49億5,965万円

民間保育所等の整備に対する助成や、幼稚園における2歳児の受け入れ、閉園する姪浜幼稚園園舎への市立姪浜保育所の定員増を伴う移転整備などにより、保育所等の定員確保(2,000人分)を図ります。



医療的ケア児保育モデル事業

899万円

市立千代保育所に看護師を配置し、集団保育が可能な医療的ケア児(たんの吸引などの医療行為が日常的に必要な子ども)をモデル的に受け入れます。



一般不妊治療費助成事業

1,077万円

子どもを望む夫婦に医療保険適用外の一般不妊治療費(人工授精)の一部を助成します。

子育て世帯住替え助成事業

1,403万円

子育て世帯の居住環境改善等を図るため、住替えにかかる初期費用の一部を助成します。(三世帯同居・近居、多子世帯は上乘せ)

教育環境の充実

スクールソーシャルワーカー活用事業

2億9,842万円

不登校やいじめなどの課題を解消するため、スクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、全中学校区に配置します。(25人→69人)



小学校英語教育の充実

2億432万円

平成32年度の学習指導要領改訂(小学校3・4年の外国語活動導入、5・6年の外国語教科化)に向け、ゲストティーチャーやネイティブスピーカー等による英語教育を先行的に実施します。



放課後補充学習の拡充

1億4,403万円

学校を中心とした地域ぐるみの放課後補充学習の実施校数を全小学校に拡大します。(70校→144校)



部活動指導体制の強化

8,535万円

中学校、高等学校における部活動指導体制の充実及び教員の負担軽減のため、部活動指導員(73人)を配置します。



誰もが暮らしやすいまちへ

性的マイノリティ支援

433万円

パートナーシップ宣誓制度の導入や専門相談電話の開設など、性的マイノリティ支援の充実を図ります。

※性的マイノリティ…性的指向や自認する性に関して多数派とは異なる人

※パートナーシップ宣誓制度…パートナーシップの宣誓による宣誓書受領証の交付を通じ、性的マイノリティの方々が抱える生きづらさの解消につなげるもの



犬猫パートナーシップ店制度の導入

500万円

犬猫の殺処分ゼロを目指して、市が定める基準を満たしたペットショップを「犬猫パートナーシップ店」として認定する制度を導入し、犬猫の適正飼育、譲渡、返還、遺棄防止を推進します。



障がい者差別解消の推進

1,302万円

障がいを理由とする差別の解消に向けた条例の制定や啓発活動等に取り組みます。

精神障がい者支援体制の構築推進

606万円

精神障がいのある方々が安心して自分らしく地域で暮らすことができるように、関係機関が連携した支援体制の構築を進め、地域生活への移行を支援します。

「福岡100」の推進～人生100年時代に向けて～

認知症フレンドリーシティ・プロジェクト

1億1,978万円

認知症コミュニケーション・ケア技法「ユマニチュード®」の普及や、認知症の人やその家族の居場所づくり等のための認知症カフェの開設促進、Fukuoka City LoRaWAN™を活用した認知症の人の見守り実証実験事業等を実施します。

※LoRaWAN™…低消費電力で広範囲をカバーできる無線通信技術を使ったIoT向けの通信ネットワーク

※IoT (internet of things) …パソコンやスマホなどの情報通信機器に限らず、すべての「モノ」がインターネットにつながること

がん検診受診強化事業

(胃がんリスク検査の導入) 2,520万円

胃がん発症予防として、胃がんリスク検査(ピロリ菌検査等)を導入するとともに、各種がん検診受診促進に向け、節目の年齢の方に個別勸奨ハガキを送付します。



災害に強いまちづくり

総合ハザードマップ

1,000万円

地理情報システムを活用し、各種ハザードマップのデジタル化を実施します。



河川水位監視の充実・強化

405万円

Fukuoka City LoRaWAN™を活用した水位観測の実用化の検証を行います。



経済活動が活発で、「チャレンジ」できるまち

世界と繋がるスタートアップの街

アジア太平洋都市サミット

5,963万円

国連において採択された持続可能な開発目標(SDGs)を踏まえ「住み続けられるまちづくり」をテーマに、24か国46都市の首長等が福岡に集まり、平成30年8月に日本最大の「都市の国際会議」を開催します。



グローバルスタートアップ推進事業

8,915万円

グローバル展開を見据えた創業環境づくりを推進するため、国際ビジネスマッチングイベント等を実施します。



Society5.0(超スマート社会)へのチャレンジ

Society5.0 へのチャレンジ

897万円

先進的な民間提案の受入・支援を行うワンストップ窓口の設置や、AIコミュニティの運営、官民データの活用推進により、社会課題の解決等を促進します。

※Society5.0…先端技術を社会生活等に取り入れることにより、様々な社会課題を解決する試み



観光ビッグデータを活用した観光案内・サービス実証

384万円

国や民間企業等と連携し、IoTや人工知能(AI)も活用した観光案内・サービスの実証を行います。



農山漁村地域の付加価値を生み出す街

市内産野菜の活用促進事業

200万円

市内産未利用野菜の商品化に向けて、産学官連携による実証研究及び加工品の試作を行います。



豊かな海再生事業等(博多湾の底質改善など)

4,658万円

アサリ等の漁場生産力や自然環境の質の向上を図るため、微生物等を利用した底質改善やアマモ場づくり等を実施します。



地場企業・商店街・働く人を応援する街

中小企業元気都市推進事業

846万円

中小企業の生産性向上を図るためのセミナー及びキャッシュレス消費を喚起するイベントを開催します。



伝統的工艺品活性化事業

1,470万円

「博多織777周年記念事業」及び「第35回伝統的工艺品月間国民会議全国大会福岡大会」への支援を行います。



「都市基盤」が充実し、次の世代のために歩むまち

未来に向けて生まれかわるまち

歴史・文化に配慮した道づくり
～博多旧市街プロジェクト～ **3億1,270万円**

博多部に点在する魅力や立ち寄り拠点等を
まちなみでつなぎ、旧市街の形成を図るため、
歴史・文化に配慮
した趣のある道路
に再整備します。



ウォーターフロントネクスト
5億3,598万円

第1ステージ(中央ふ頭西側・基部～博多ふ
頭)の再整備に向けた事業手法や交通対策、
クルーズ受入機能強化の検討、第2期展示場
等の整備に係る公募手続きや関連インフラ
工事などを行います。

<関連>その他計画的な基盤整備 16億8,570万円
(中央ふ頭の岸壁整備、築港石城町線の整備等)

天神ビッグバンの西のゲート
～旧大名小学校跡地のまちづくり～ **1,039万円**

事業者公募の結果を踏
まえ、事業契約締結に係る
協議・調整を行います。



九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり
2億6,867万円

まちの整備ルール等を示すランドデザイン策
定や基盤整備の検討、先進的なまちづくり
[FUKUOKA Smart EAST]の取組みを推進します。

文化・芸術・スポーツ活動拠点の整備・充実

総合体育館整備運営事業
9億5,325万円

総合体育館の整備・運営
等を実施します。
(平成30年秋 供用予定)



美術館リニューアル事業
5億7,450万円

福岡市美術館の改修・開館準備及び
リニューアル記念展等を実施します。
(平成31年3月 供用予定)



憩い・潤いの空間の充実

一人一花運動
1,750万円

市民・企業みんなで花と緑を育て
ることで、誰もが福岡に親しみや愛
着を持ち、豊かな心が育まれる「フ
ラワーシティ福岡」を実現します。



動植物園再生事業
9億7,145万円

動物情報館や駐車場、飲
食・物販等のエントランス
複合施設を整備します。
(平成30年秋 供用予定)



災害に強く環境に優しいまちづくり

機動救助隊整備経費
1億2,867万円

高度な機能等を有する
新たな救助隊(機動救助
隊)創設のための車両や
資機材を整備します。



暮らし安心・適応リノベーション促進事業
160万円

市民モニター制度を活用した
広報・啓発で、住宅窓の複層ガラ
ス等への改修を促進します。
※リノベーション…既存建築物の性能
を高め、付加価値を与える改造・改修



各区の特色あるまちづくり

東区

東区スタイル地域包括ケア推進事業 54万円

東区を4ブロックに分け、医療・介護・地域のネットワーク強化のための連携会議開催や介護予防の取組みを強化します。



地域防災力の向上 358万円

災害に強いまちづくりを目指して、校区の自主防災組織の体制強化や、地域での避難行動要支援者対策の推進、自主的な避難所運営訓練等を支援することにより、地域防災力の向上を図ります。



博多区

博多ライトアップウォークの推進 1,000万円

「博多ライトアップウォーク」を開催し、博多部の歴史的景観の魅力発信や集客・回遊性の向上、地域活性化などを図ります。

期間中は、博多部の数多くの寺社を様々な趣向で美しくライトアップします。



放置自転車対策の推進 672万円

放置自転車を防止することにより、良好な生活環境の確保と、都市の美観の維持を図るため、区内の放置禁止区域や放置常習箇所を対象に、街頭指導員を配置し、モラルマナーの啓発を推進します。



中央区

安全・安心フェスタ 2018 256万円

中央区の安全で安心なまちづくりを推進するため、防災・消防・防犯・交通安全をテーマにした楽しみながら学べる参加型イベントを開催します。



まちづくり推進事業 112万円

中央区の魅力向上を図るため、地域課題の解決や賑わいづくりなどに取り組む地域のまちづくり団体等の活動を支援します。



南区

大学と地域の縁むすび事業 127万円

大学の専門分野や学生の活動を区のまちづくりに活かすため、「こども大学」、「出前講座(大学版)」などを実施し、大学・学生と地域の交流や連携を推進します。



こども大学講座

ため蔵食ゼミ 152万円

子育て世代などを対象に、食に対する漠然とした不安を解消し、納得した食品選択ができる消費者を目指す体験型講座を開催します。

